





山州名跡志卷之十一目錄

葛野郡

西院

清水

為義塚

綱敷官

武御前

清泉

大宮

三宮

桂里

天龍宮

春日社

三宮

嘉屋御前

鞠負官

稲積社

御所内

若王子

桂川和歌

兼房別荘

住吉社

権現寺

月讀社

櫛谷社

幸神社

勝定院

川勝寺

埴河

伊勢宅

野官并和歌

権現堂

大森彦七宅地

衣手社

塩通寺

幸林房塚

津寺

葛野河

御靈社

地藏堂
唐橋

河島村

久遠寺

河島墓

乙訓郡

上久世

光福寺

觀音堂

鎮守

綾戸社

大藪

鷲尾堂

八幡

木下社

下久世

福田寺

板井清水齋

保良社

子敷盛居所

下津林

蓮生寺

觀音堂

紀伊郡

吉祥院

天滿宮

老松社

紅梅社

上所權現

辨財天

藏王社

大原野社

放生池

六田

牛宮

石原

賀陽宮

鳥羽齋

作路

實相寺

地藏堂

觀音堂

戀塚

小枝齋

橋

稻瀬淵

秋山里

鳥羽殿

御所内

院馬場

菊水

南殿

鳥羽之門

城南神社

八幡宮

北殿

池

車殿

田中殿

平門

泉水田

上菩提院

白河院陵

勝光明院

洲濱殿

竹田

安樂壽院

新御塔

塔

新堂

無銘石塔

御愛梅

冠石

荒神社

國分寺

九品寺

山王社

十禪師宮

御幸社

猿塚

東西陵

西行寺

不動院

美福門院陵

近衛院陵

芹河尊

芹河御所

赤池

草津

壇上

戀塚寺

下鳥羽

法傳寺

方便水

一念寺

田中大王

上羽

横大路

富森

納所

赤井

赤江崎

塔社

乙訓郡

久我

久我畷

久我社

久我森尊

八幡宮

久我家別荘

本清寺

築山

古河

羽東師社

羽東師社尊

目錄

山州名跡志卷之十一

瑜伽林隱士 如是相白慧 撰

葛野郡

西院 地名 在四條通西封疆外四町許 此号案ニ中

比此所ノ西ニ前ノ齋院居玉ヘリ。是ヨリ用テ此邊ノ名

トシ齋院ト書ス。然ルヲ此所亡滅已後西院ニ作ル歟

春日社 右村北平林内在 鳥居 西向 拜殿 南向

社同 土人産沙神ト爲ス 例祭八月廿八日神

興ニ基アリ其一ハ住吉社ノ神輿ナリ

住吉社 同村西ニ在 鳥居 北向 社 西向

野宮 或齋宮 在西院西五町許平林中 拜殿 東向 社 同

此所今春日。住吉祭日神輿ノ旅所ト爲也。按スルニ。此所ハ巖峩ニ等ク。伊勢齋宮ノ居シタマヒシ所ナリ。齋宮齋院潔齋ノタメ居シ玉フ所ヲバトモニ同ク野宮ト号ス。事ハ記傳ニ載タリ。但シ此所齋王ノ始未考。延喜帝ノ皇女雅子内親王此所ニ住タマヒシ由ニ撰集ニ出ツ如左。

死五律 冥乃奇まのりくふ花よつまはほろりくろ
白ひくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

△清水 野宮南半町許小林中ニヨリ 由來未考

○三宮 清水西北郡村ニヨリ鳥居 東向 拜殿同 社同
此社ハ松尾七社ノ中ノ其一ツ也。勸請記不詳。

○權現寺 在七條朱雀通西角 門 在東北 宗旨
淨土屬知恩院 堂 東向 本尊 阿彌陀佛 坐像

○權現堂 在北門内南向 勸請スル所權現ノ
本地勝軍地藏 立像一 尺餘 作 聖德太子 安厨子

脇壇 左地藏 都子玉丸本尊 右 聖德太子ノ
影 自作 共ニ小 當寺始 歡喜寺ト號ス其地今在
處ノ東洛外封疆ノ東舊跡ニ古木アリ。歡喜寺森ト

號ス其乾二十間許ニ塚アリ。權現社ノ跡ト云フ。今ノ
如キハ秀吉公ノ代ニ移セリ。權現始メ南京元興寺ニ
安ス。文徳天皇御歸依ニ由テ。此地ニ移玉フトナリ
○源爲義塚 右北門前竹林中在リ。今石彫佛像ヲ安ス
此所ハ古源義朝 勅ニ依テ父爲義ヲ誅セシ所ナリ
保元物語曰。鎌田兵衛爲義入道ノ方ニ參リテ。當時
都六平氏ノ輩權威ヲ取テ。守殿ハ石中ノ蜘蛛トヤラン
ノヤウニテ御座セバ。東國エ下ラセ玉ヒ候ナリ。判官殿ハ
サキ立奉ントテ。御迎ニ參セラレテ候トテ。車指寄セ
タレバ。サラバ今一度ハ幡エ參テ御暇乞申スベカリシ
モ。ヲトテ南ノ方ヲ伏拜テ。頓テ車ニ乗タマフ。七條朱

雀ニ白木ノ輿ヲカキスエタリ。是ハ車ヨリ乗移リ玉ハシ
所ヲ討奉シ支度ナリ。其時奉次郎延景鎌田ニ向ツテ
申ケルハ。御邊ノ評誤レリ。人ノ身ハ一期ノ終リヲ以テ
一大事トス。ソレヲヤミクト殺レ奉シ事情ナク侍ベリ。只
有ノ儘ニ知セ奉テ。最後ノ御念佛ヲモ嚮メ申サレ。又ハ
仰セヲカル、御事モチドカナルベキト云ハバ。正清
尤モ然ルベシ。物ヲ思ハセ參ラセシト存ジテ。カヤウニハ
評タレドモ。實ハ我アヤリ也ト申レケレハ。延景參ツテ
實ニ關東御下向ニテハ候ハズ。守殿ノ宣旨ヲ承分
テ。正清太刀搦ニテ失ヒ參ラスベキニテ候。再三數千
御申候ヒシカドモ。勅定重ク候アイダ。カクタク申付

ラレ候心レツカニ御念佛候ベシト申タリレカバ口惜キ
事カノ爲義ホドノ者ヲ謀ラス凡誅セヨカレ。縦ニ緘言
重クシテ助ル事叶ハズトモ。ナド有ク、ニハ知ラセヌゾ。
亦實ニ助ント思ハ。我身ニ更テモチトカ申宥メサル
ベキ。義朝ガ入道ヲ頼ミテ來リタラシラバ爲義ガ命チニ
更テモタステテ。義朝一人ガ咎ニアラス。此ノ事ヲ始メ
ヨリ。ナド知セヌゾトテ。念佛百反バカリ唱ヘツ。更ニ命ヲ
惜ム氣色モナク。程ハ定テ爲義ガ首斬ヲ見ントテ。雜
人ナド立コムベドク々斬トノ玉ヘバ。鎌田ノ次郎太
刀ヲ拔テ後ヘハリケルガ相傳ノ主ノ首斬シト。心
ウクテ。涙ニクシテ。太刀ノ中所モヲホエテ。持テタル太

刀ヲ人ニ與ヘテ終ニ斬レタマヒニケリ。頸實檢ノ後。義
朝ニ賜ヒテ。孝養スヘキ由ニ仰下サレケレバ。正清コレヲ
請取リテ。圓覺寺ニ收メ墓ヲ築キ塔ヲ立テ。孝養ヲ
シ致サレケル。卷中

△嘉屋御所

權現寺ノ西ニ町路ノ北竹林ノ地是ナリ
此所小祠東向ニアリ。此地古ヨリ鐵ヲ入ルコトナシ
是即靈神有ル故ナリト云。此所ノ名一ナラス。或ハ保
多御前或ハ波布曾乃御前ト云。由來詳ナラス。一説
曰。田原藤太秀郷ノ宅地。祭ル處惡王子ナリト
○月讀社 右竹林ノ西路ノ傍ニアリ。鳥居東向社同
此社松尾七坐ノ中。月讀社ノ例祭ノ日。旅所ニシテ神

興ヲ移ス所ナリ。祭ル所本社ニ同シ

○大森彦七宅地 傳説右社西真室寺地ヨリ東至下町下云

○綱敷天神宮 月讀ノ西北方南向ノ小宮是ナリ 傳

未詳 按スルニ綱敷ト菅橋公筑紫ニ遷リタマフ時

博多ニ於テ船ヨリ上リ玉ヘルニ御座無クシテ船綱

ヲ敷テ御座トナス。此時一夜ニ於テ白髮ト成玉ヘ

リ。世人其御相好ヲ圖シテ綱敷像トモ二一夜白髮ヲ

御影正云也。其神像ヲ安置スル故ナル歟 縁起不詳

○鞆負天神宮 綱敷宮ノ西丁町餘路傍ノ北ニアリ

小祠 南向 傳記不詳 此宮ノ前南北ニ通ル路アリ

是ヲ鞆負通ト号ス仍テ号ルナリ。此通路ハ南西寺ニ

アタル古ハ西寺ノ西ヲ通ツテ吉祥院ニ通ジ北ハ北

野天神宮ノ南門ニ通ズ今尚田畠ノ中ニ細路アリ

コレスナハ子音神北野ノ宮ヨリ吉祥院ニ通ヒタマフ

路ナリト云フ。吉祥院下ニ載ス

○櫛谷社 右天神宮ノ北ニアリ 社 南向

此社松尾七坐ノ中本社ニ同シ。祭日ノ前二月己日

己日二日アルトキハ第一ニ用ユヨリ例祭四月酉日ニ

至テ神輿ノ旅所ナリ

○衣手社 宗像社 右社ノ南半町許ニアリ 一社南

北ニ雙テ東向ニアリ 所祭 松尾七坐ノ中義上ニ

同シ。本山ヨリ神輿遷幸ノ日社ノ前ニ於テ能ラ爲也

○武御前社 右社ノ西一町許ニアリ 鳥居西向 木柱

社同 祭ル所松尾ノ屬社ナリト

○稻積社 右社ノ南一町餘路傍ノ西ニアリ 小祠南

所祭稻荷神 此所東ニ通路アリ 是即千梅小路ナリ

○幸神社 右社ノ南二町許西寺ノ西北ノ路傍ニアリ

小祠東向 所祭道祖神

○塩通寺 世ニ水薬師ト稱ス 衣手社ノ坤二町許ニアリ

堂東向 本尊 薬師佛 立像二尺餘 作不考 開基不

詳今真言宗コレヲ守ル

○清泉 堂ノ傍ニアリ 此水ニ因テ本尊ヲ水薬師ト

稱ス 一説ニ曰ク平相國熱病ノ時此水ヲ汲テ浸リ

玉ナリト然レド王書記ナシ源平盛衰記六比處山千手

井ノ水ヲ汲由ヲ載タリ 附云彼井今尚千手院谷ニアリ

御所内所名 右寺ノ坤四町ニアリ 方二町許民家アリ

村ニ名タ 傳云此所古公家ノ別荘アリ 仍テ御

所内ト稱ストナリ 然レモ其人傳説不詳 謠云清盛ノ

宅地ナリト 按ニ此義非ナリ 相國ノ八條亭ハ此所ニハ

ラス 其地洛陽部ニ載ス 今此所田地ノ字ニ石町ト

号スルアリ 是則千古泉氷疊石ノ跡ナリト 土中今尚

疊石アリ 又此地ニ毎歲荷葉ヲ生ス 耕夫無情ニレテ

刈捨レトモ絶ルコトナレ

○勝定院 同所ノ中央ニアリ 寺南向 額勝定院

堅額筆者不詳 本尊 阿弥陀佛 坐像一尺五寸 作春日

開基不詳古真言今浄土宗守之

△越前幸林房塚 同所ノ乾二町許ニアリ 傳不詳

○大宮○若王子社 同所ノ家ノ東ニアリ 社西向

所祭 松尾大宮 熊野若上王子 傳不詳

次下ニ所載前ニ云フ櫛谷社ノ西ニ至ル

川勝寺所名 鞍負通ノ西四町許ニアリ 此所ハ古(秦)

川勝建立スル所ノ川勝寺アリ 其寺上ニ藏ストイハ生呼テ

村名ト爲ス彼ノ舊跡今福源院ト号ス 此寺古ハ大架

ナリ 今里ノ中ヨリ北ニ當テ塔ノ本ト称スル地ノ字アリ

是則千塔アリト所 今猶殘テ如塚又里ノ南ニ堂ノ内ト

号ル地ノ字アリ 是又一寺ノ内ニシテ古ハ街道 此所ニテ南ノ方ヲ通ル状 但別寺ノ跡ナル状不詳

○津寺 同所橋ノ西ニアリ 小堂 南向

本尊 薬師佛 立像六尺 作行基 開基 不詳

○三宮 同所北方ニアリ 社 南向 所祭松尾ニ同シ

祭日同キ神輿ノ旅所ナリ

又云 右里ノ東西ニ南北ニ流レテニツノ河アリ 其東ハ

紙屋河ノ流シ 其西ハ鳴瀧河ノ流シナリ 本末上ニ辯ズ

桂川 川勝寺ノ西四町許ニアリ 此川丹波往還道ヲ

遮ツテ舟渡シナリ 西ニ桂里アリ 仍テ川ニ名多ク水源ハ

大井川 南ハ下鳥羽ノ西ヲ流シテ淀ニ至ルナリ

和歌二詠ス

河川百首
ふる川にさる月影のやうに萩の葉よとひまをて庭よみんる
ま本集
ふるふるのさるはさるおむい月うさるわうたくれぬさる
る家

○埴川 今号上桂左衛門府知之 拾芥

○葛野川 今号下桂右衛門府知之 同 譚此府

官ノ司ニテ堤等支配スルナリ

桂里 川西ニアリ 里兩所南北ニ在テ 上桂中桂下桂ト云

古今
久々の中にあつらう里をねえりとおもをれひつらり
修房
いこころふ就世へかん久々のあつら里の月乃うらく
修房

●藤原兼房山莊 古此所ニアリ

及拾芥
桂乃心在まらくはあのいこころははまねを修房

衣ものも終どとととらう時多分回へんも同ぬ信家と
三魚房

●伊勢宅 昔ノ名女伊勢御此所ニ住ムコトアリ

新於巻集
伊勢が極よ住ゆるはるる落日けうらうらう

月のうちらたうらうをふととてあは涙のそひて落ん
七葉后
同集
伊勢が極の家よあつらう極の枝よ付とせ修房

梅の花をさるに秋うととぬにさる恨てさる情まさる位亭院

因云此里ニ桂女ト云古事アリ 後古公家武家ニ

出入ス今尚後裔アツテ桂姫桂御前ナド称ス依

縁他所ニ住ストイハ氏号ハ則用之桂女源三位

頼政詠和歌 桂女ヤ新枕スルヨナクハトラレシ

鮎ノ今夜トラレヌ 本縁載別記

○御靈社 上桂民居ノ西ニアリ 鳥居東向 拜殿同
社同 所祭 火雷神一坐 神祇拾遺

此神或書曰崇道天皇御弟云云 一書云北野御眷
屬神ニ同名アリ。當社ハ別神也云云 土人産沙神ト
為ス 例祭 八月十八日 神輿一基

○御靈社 下桂村ノ中西ノ方ニアリ 鳥居東向

社同 所祭 橘逸勢靈 土人産沙ノ神ト為ス

例祭同上 神輿一基

○地藏堂 同所往還路傍ノ北ニアリ 堂南向

地藏菩薩 立像八尺許 作小野篁 縁起前見多

河嶋所名 桂ノ西ニアリ 民家アリ村ニ名ク

○久遠寺 同所ニアリ 寺東向 宗旨 一向真宗

西本願寺ノ別院ナリ 開基 本願寺門主覺如

上人 ○覺如塔 地内ニアリ 覺如上人真宗開

山三世 觀應二年正月十九日ニ化ス。八十二歳

●河嶋墓 延喜式ニイフ。今議ナラズ 延喜式曰贈正

一位當宗氏墓 在山城國葛野郡云

此ヨリ西ノ名所前卷ニ載ス。今此ヨリ東ニ至リ。

西寺ノ西南ニ至ル

○唐橋 東寺南門ノ西四塚ノ辻四町ニアリ 唐橋ト

号スルニ説々アリ。一説ニ秀吉公朝鮮發向ノトキ造ル

故ニ唐入橋ト云フ義ヲ以テ。此ヲ号ルナリト。此ヲ義非

也。尤今此道東寺ノ西朱雀通ノ辻ヨリ向日ニ至ル道ハ其時開ク處ニシテ元ヨリ唐橋ト号スル橋アリ。其所今ハ唐橋村ト云フ。今ノ橋ヨリ一町餘卯辰ノ間ニアリ。古、其所ニ橋アツテ唐橋ト号ス。其流レヲカヘテ今ノ地ニ移ス故ニ舊号ヲ用ルナリ。初メ唐橋ト云フ事未考。初ノ唐橋路東ハ洛中ニ至テ直ニ唐橋通ト云ヒナリ。其證ハ拾芥抄ニ東寺ヲ記ス。東寺ハ唐橋ノ南壬生ノ東ト云云。唐橋トハ唐橋通ト云フ義壬生トハ壬生通ト云フ略語ナリ。壬生ハ即チ朱雀通今本通ノ東ノ條ナリ。此條南北ニ通りテ下ハ九條ニ至ルナリ。東寺ハ則チ壬生通ノ東ニアル事明カナリ。唐橋

ノ南トハ唐橋通ハ東寺ノ北門前ヲ東西ニトラル條是ナリ。此條東西ニ通ツテ東ハ東洞院ニイタルナリ。今ノ如キハ民居トナリ。田島トナスナリ。是レヲ以テ知ベシ。古ノ唐橋ハ今ノ唐橋村ニアツテ東西ニ渡リシ也。其橋西ニ至テハ桂川ノ流ヲ越ヘテ五立ハ町西ノ世ノ西ヲ經テ南ノ方向日ニ至リ。山寄ニ通ルナリ。此通今尚久世ノ西ノ野ニ南北ニ通ル細道殘ツテソレヲ指テ播磨街道ト云フナリ。又云フ。今ノ唐橋ノ路ハ秀吉公ノ代開クヲ以テ其開クニ田地ヲ劈分ル故ニ今尚其巷ニ一段ノ田地道ノ左右ニアル者ナリ。其地ノ年貢減スルヲ以テト古ノ年貢帳ニ違スル故ニ。

此道出ルノ後ハ其損田ノ感分ヲ号ケテ道蕪ト記ス
ナリ。今尚^カ此ノ如シ。同キ橋ノ下流ハ洛陽堀川ノ流レ
ヲ四條通ヨリ西ノ野ニ分流ス。是則チ田地ノ用水ナリ。
其水野ヲ流レテ西七條ノ西ヲ流レ。此所ニ來ツテ。吉
祥院ノ河ニ入ナリ。吉祥院ノ河次下ニ記ス。又此橋ハ
吉祥院ノ領ニシテ。橋修理ヲ加ルニ及ブトキハ。彼ノ所
ヨリ上ニ新^カヘルナリ。又此橋ノ下流ハ鳴瀧河紙屋
河堀河四條ノ流レ。今ノ唐橋村ノ西ニテ落合テ來リ
上鳥羽ニシテ桂川ニ合ス

乙訓郡 所載次下乙訓郡

上久世 所名 久世上下ニアリ 唐橋申西ノ間々半里

諸桂川下流ノ西ニアリ

○醫王山光福寺 上久世ニアリ 境地南向閉前三

町左右ニ松ノ雙樹アリ 宗旨 四宗兼學同三鈔寺

鳥居 南向 門 南向 安金剛力士 長六尺許

作 聖德太子 拜殿 南向 堂 同 額 藏王堂

豎額 筆者不詳

本尊 藏王權現 立像六尺許 作 役行者

同東脇壇 役行者像 西壇 淨藏貴所 已上作

○觀音堂 同所 東アリ 本尊 聖觀音 立像一尺 餘作不考

○木守 勝手社 堂ノ東傍ニアリ 所祭和州吉野山同

開基 淨藏貴所 當寺傳云人王六十二代

村止天皇ノ御宇。天曆九年乙卯。淨藏貴所草創ノ地ナル。貴所ノ傳第一卷三見嘗テ貴所吉野山大峯ニ入ツテ苦修ス。其後彼岩岬ヲ出テ。洛ノ舊宅ニ歸ラントス。時ニ即彼山藏王權現ノ寶前ニ籠ツテ。法施スル事ニ晝夜ニ至ル。曉夫ニ及デ夢ニモアラズ。現トモ無レテ。寶殿動搖シ。權現出テ言ク。汝キ日比ノ法施神妙ナリ。今洛ニ歸ラントス。吾ヲ供レツベシ。永ク有縁ヲ守ラント。淨即チ告ニ任セテ。袈裟ヲ解テ。肩ニカケテ。其上ニ荷負ス。忽チ化レテ木像ト爲ル。曉年彼ノ山ヲ立テ。帝土ニ向フ。桂川ノ畔ヲ往テ。持スルトヨロノ鉢自河水ニ落テ。水ニ泝洄テ北ニ至ル。奇異ノ思ヲナシテ。

之ヲ慕フニ鉢自ラテ所ノ岸ニ止ル。其所今ノ藏王堂ノ東ノ川ナリ。淨即チ其地ニ留リテ四方ヲ見ルニ西方ニ村ノ上ニ圓光赫々ス。行テミレバ辨財天女ノ靈場也。又藏王神像如山ニシテ動キ玉ハズ。此地ハ是有縁ノ地ナル事ヲ悟ル。即チ州座シテ持念ス。同夜西ノ方ニ丈六ノ椰ヲ生ズ。明天老翁現ジテ木ニ向ツテ。辨財天醫王善逝ト唱ヘテ礼ス。淨之ヲ問フ。翁云。此地ハ則チ醫王辨財天女影向ノ所ナリ。今時ナル哉。藏王權現此地ニ來リ玉フ。於此建佛閣安住セバ。利生不退ナラント云畢テ。矢ヌ。淨數品ノ靈瑞ノ故ニ。村民ヲ招キ四方ヲ勸テ。一堂ヲ營ミ靈像ヲ安置ス。今ノ本尊是ナリ。已上縁起意

例祭 九月十九日於神前爲能 主人爲產沙神

○綾戸社 在藏玉堂南民村中 社南向

所祭 有説云 例祭 九月十九日 每歲六月

祇園會ニ彼ノ神輿四條ノ旅所ニ遷幸ノ時冠裝束ノ男子木作ノ駒頭ヲ首ニ繫テ馬ニ乘リ神輿ノ前ヲ行アリ。是便當所ヨリ勤ム其駒ノ頭此社ノ社司ノ家ニ置也俗御駒ト稱シ信敬シ其家ニ參詣シ祈願ス由來不詳

大藪 所名 在上以世己午雙 有民家名村

○鷲尾堂 在右同所 俗ワレラダト云 堂南向

本尊 藥師佛 立像一尺許 作不詳 此像乘鷲背

鷲見返左 鷲所作傳教

脇士 十二神 臺座所 作傳教

當寺開基 傳教大師 傳云昔太師 八幡ノ神告

ヲ得テ於此地爲放生會。尔時一鷲藥師佛ノ像ヲ

負來ツテ留メテ去リヌ。師信感シ此地ノ靈土ナルヲ知ル。

遂ニ手鷲ノ姿ヲ作テ爲佛座。并ニ十二神將ヲ作り。

佛殿僧房ヲ造管シテ号鷲尾寺。中比回祿シテ大ニ衰

タリ。又堂後ノ古松ハ古鷲ノ來リシ所ナリ

○八幡宮 在堂傍 勸請ノ本縁依件義也

○木下明神 在鷲尾寺南一町 鳥居南向 拜殿同

社同 所祭 辨財天 但近世所改祭也 主人爲

産沙神 例祭 四月己日 此所ハ古羽束師明神

祭日神輿ノ旅所ナリ。仍所祭同羽束師社中比彼社ノ氏子等神事ニ就テ爲詳論闘争ス。是故ニ氏子多ク他郷ノ神社ニ屬ス。仍テ此所ヲ不爲旅所也。

○下_宅久世 在上_宅久世南七八町

○迎錫山福田寺 在同所平林内 門南向 堂同

額 迎錫山 堅額 筆者唐人絶名

本尊 地藏菩薩 立像五尺許 作 行基

脇士 二天 長五尺許 二天 多門持國也 作 不詳

脇壇東釋迦佛 作 行基 傳云行基菩薩此地ニ

居在ノ時靈告ヲ得當寺内ニ靈木アリ。是ヲ以テ釋迦

并地藏尊ヲ可刻ト。即チ出テ巡見セラル。一古栢樹ヨリ

光明ヲ現ス。由ニ造立セラル、所ナリ

同西壇 摩耶夫人 赤梅檀立像八寸八分 作 梁武帝

傳云此像ノ來由ハ於唐土或時難産ニ係ツテ死ス者

多シ悲歎ノ聲巷ニ滿ツ。因是皇帝一心ニ持念シ玉ヒテ。

手摩耶ノ尊像ヲ造リ玉フ事ニ尊。以テ三寶ニ皈レ。天

下ノ平産ヲ祈願シ玉ヘリ。然ル時忽チ天下ノ難産止テ貴

賤愁眉ヲ發ス。弘法大師入唐ノ時、件ノ由旨ヲ聽聞

シテ其尊ヲ乞得テ日本ニ將來ス。其後攝州ニ一精

舎ヲ建テ此尊ヲ安ス。此山ヲ号テ佛母摩耶山。切利

天上寺トス。今此像是ナリ。其來由記緋紙金泥ノ書一

軸アリ。其傳ノ終ニ長和四年卯月八日沙門弘慶敬白云

摩耶山ヨリ當寺ニ移ス事由縁不詳。今彼本山ノ像ハ別作トイフ

○龍神像 安同堂 此像以石作ル奇異絶妙ノ相

好ナリ。古早魁ノ年。當寺ノ住持俊惠法師請雨ノ法

修セル。寺内ノ井中ヨリ現ゼリ。靈驗古今ニ新ナリ

○板井清水 在同寺良一町許田間 此所古ハ寺ノ

境内ナリ其方界方八町アリシト。此井ハ即チ俊惠法師ノ詠俊歌者也

千載集 題 古御月

ふるまの板井は清水みよきあそ月をまきば物まらるる

右倭哥ハ俊惠法師出此所在他後端所詠云云

みよきあそ板井は清水みよきあそ月をまきば物まらるる

○保古羅明神社 在福田寺北一町許森内 鳥居南向木柱

拜殿同 社同 所祭 不考 當所爲産沙神

●子敷盛舊跡 當下久世南寺戸北有池其所是ナリ

傳云此地敷盛ノ室。蟄居シテ一男子誕生ノ所ナリ。然

後源家ヨリ平氏ノ裔類ヲ尋揚ヲ以テ不堪忍ノ一乘

寺ノ下松ニ捨ツ。此地古ヨリ住宅スル者皆怪異ニアラ

ユハニ島トナス。然レドモ又實ノルコトナシ。因テ爲池ナリ。又

池ニ米種ヲ浸スニモ無芽ト云フ

因ニ云下久世ノ邊ニ鷺坂并指月。鉤月ノ名所アル由浮

説アリ。大々附會ノ説ナリ。鷺坂久世ニアリト名寄ニ云フ

今此上下ノ久世六アラス。此所ハクゼト濁ルナリ。見末卷指月鈎月又見末卷。鷺坂名所方角抄ノ説ハ不可用。此書宗祇作トイフ非ナリ。

下津林ツギノ村名在上久世西北。

○蓮生寺 在同所 熊谷蓮生ガ住シトイフ非ナリ。當寺棟ツツ云云。蓮生大徳人建立ス云云。

○觀音堂 在同所 云西御堂初ハジメ觀ミ々々如カ今イマ草堂クサドウ本尊十一面觀音立像八尺許作慈覺元峯堂ノ本尊ナリ。峯堂載前。

右下久世西南至寺戸カ鷄冠井カ山崎街道ナリ。其所載第十卷今所載次下自下久世東至桂川東南。

紀伊郡

吉祥院キチヤウイン 所名 在東寺四塚申西方鳥羽街道西七八町。

○吉祥院 在同所平林中堂南向本尊 吉祥天女立像三尺許 作傳教大師 ○同東脇壇 傳教太師像坐倚子一尺六七寸 新作 ○同西脇壇 菅原清公像衣冠坐像長同上 新作

○天滿宮 在同堂西 鳥居東向在林外東木柱

○老松紅梅社 在本殿東南向 二神祭一社

○十二所權現社 在本殿西傍東向

○十六萬八千神社 在本殿南

○辨財天社 在鳥居南傍東向

○藏王社 在鳥居内南向

○大原野社 在藏王南 所祭 大原野春日明神

當院ハ菅家普代ノ領地ニテ。菅相公ノ別業アリ。初菅家ノ祖清公卿延暦二十二年七月ニ遣唐使トシテ異朝ニ到ルニ明州ノ湊ニ著ントスルニ海上風發ツテ船漂流セントス。傳教大師始メ最澄タリシ時入唐求法ノタメニ同船ニアリ。即チ起テ吉祥天女ノ法ヲ修シテ其平安ヲ祈ル。法驗感ニコタヘテ。忽チ順風ト成ツテ無異義入唐。其後歸朝セリ。遂ニ清公卿ト心ヲ合セテ。吉祥天ノ像ヲ造立ス。清公即チ此地ヲ點ジテ。堂宇ヲ建立シテ天女ヲ安

置シ号ミ吉祥院也 緣起意 ○舊記云 鳥羽院御宇

天仁二年二月二十五日依菅相公告始行此野御

忌日於吉祥院行ハ講云云

○放生池 鳥居東川是也 水源記前卷

六田 地名 舊跡在鳥居寅卯方河東五十間許田間

此所古菅相公垂ノ音ヲ愛シ玉フ所ナリ。實永ノ比世ノ諷哥ニ六田ノ夜半ノ虫ノ音ト云ヒレ此所ナリ

●牛宮 在同所竹林東 今棟ノ枯木アリ 傳不詳

石原 所名在吉祥院南 有民居名村 石原号在止

下上ハ今ト多吉祥院村是ナリ

○賀陽宮 古此所ハ桓武帝第五ノ御子賀陽親王ノ

別館アリ。号賀陽宮。舊地不詳。三代實錄曰。貞觀三年六月七日庚戌山城國奏言賀陽離宮久不行幸。稍致破壞。請爲國司行政處。但不廢舊宮名。行幸之日加掃除許之。卷五出

鳥羽所名 鳥羽在上下 上鳥羽 在四塚南

○作路 此名世ニ高シ。今名ヲ滅ス。按ニ作路トハ云前八町則其内ナル歟。其故ハ此道東寺ニ近躰載太平記ニ文ニ勅使河原丹三郎主上ハ何地共ナク東ヲ差テ落サセ玉ヒヌト披露アリケレバ見危致命臣ノ義ナリ。我何ノ顔アツテカ。亡朝ノ臣トシテ不義ノ逆臣ニ順シヤ

テ。三條川原ヨリ父子三騎引返シテ。鳥羽ノ造道羅城門ノ邊ニテ腹カキキツテ死ケリ云云。古今著聞集文上東寺ノ南作道ノ田中ニテ求出シタリト云云。卷十七又号作道。鈔内在十八町。欽出太平記卷八。文東寺前ナル寄手ヲ取籠ントス。作道十八町ニ充滿シタル寄手是ヲミテ不叶トヤ思ヒケシ。羅城門ノ西ヲ横切ニ寺戸ヲ指テ引返ス云云。○此名鳥羽ノミニモ不限。八幡ニモアリ。但今知者ナシ。爲世物語トイフ。雙紙ニミヘタリ。此道出徒然草。此書賞世諸抄。板行シテ今亦四通アリ。如何ナル故ニカ。一書ニモ不詳也。有一勘載別記。

○鳥羽 詠和歌

月清 集 夕々之の夕休れりて霞吹風小る相正の夕々東より也 後集 序集 雪のあふるるのつそふ月まて身相正の夕々東より也 後集 序集

○正覺山實相寺 在上鳥羽中民居西方 門東向

佛殿 南向 宗旨 法華屬妙覺寺 開基 大僧正

大覺上人 上人八日像ノ弟子ナリ。近衛攝政經忠公

男初、真言密峩大覺寺ニ住ス。日像上人宗旨弘通時

為弟子 委龍華傳

○俳諧師貞德墓 在堂前東面

塔銘 逍遊軒明心居士 承應二年十一月十二日

貞德傳 洛陽人也。其先攝州高槻郡司入江政

重。母松永彈正久秀伯母也。其長子永種此時氏改

○松永其子貞德也。号明心居士。其他逍遊軒。圓陀麻

呂。長頭麻呂。皆別称也。嗜歌學。時細川藤孝隱于洛

東吉田。師之。又以俳諧鳴于世。卒年八十二歲。其辞世

ツノ命消ルコトモノ玉哥フタビウケ又御法ナラナシ

○地藏堂 在右南方路傍 六角堂 西向 地藏菩薩

立像七尺 作 小野篁 當國六地藏其一傳記上

○觀音堂 在地藏堂南傍 本尊 聖觀音 立像五尺

作不詳

○戀塚 在地藏堂南路傍東池中 上三石碑ヲ立ル

正保四年十一月二十九日序銘作者 羅山子

願主 永井日向守直清 序詞略 銘

所節婦兮 惟孝惟義 石可泯兮 貞名不已

夫稱戀塚者一所ニ在ッテ難史今主人ノ謗ヲ以テ記ス
見人所好可願一説曰ク今此塚ハ遠藤武者ガ所築
ニアラス古ハ此池廣大ニシテ鯉アリ住コト久フシテ已ニ化
通ヲ得タリ間ノ入種々ノ奇怪ヲ振舞テ婦人女子ヲ饜
ス是故ニ遂ニ馳捕レテ滅ス然レドモ尚其靈執ヲ怖テ池
底ニ納テ作塚号鯉塚云云

小枝所名 土人コイダト云フハ非ナリ 在上鳥羽南八町

○小枝橋 在同所 自戊亥渡卯辰 柝行四十二間

下流北ヨリ南ニ流ル是則五條橋ノ下流鴨川ノ末ナリ

○稱瀬淵 右橋ノ下鴨川桂川ノ落合ス云云 此名今

亡シ出景清舞 悉七兵衛景清ガ愛妾五子王上云者

景清ガ在所ヲシテ源氏ノ代官六波羅ノ館ニ訃ル故ニ
景清ヲ捕ルナリ然ラシテ此女ノ不道ヲ憎シテ京中ヲ
率度シ其後此淵ニ沈ムト云云其詞ニ鴨ト桂ノ落合
稱瀬淵ト云云

秋山 地名今秋山ト云フハ小枝橋ノ段五町許東ノ川ヨリ
西四町許田地ノ間ヲ云フ也秋山トハ往昔鳥羽殿ノ
境内ニ四節ノ風景ヲ造ル中ニ楓紅葉ノ樹ヲ植テ秋ヲ
愛シ玉フ所ニシテ同キ殿館ヨリ南西ニ築設ル假山ナリ
其形今纔ニ殘ツテ小枝橋ノ南路傍ノ東竹林ノ小
山是ナリ古ハ此山ニ阿弥陀堂アリ同キ殿中ノ御堂也

其本尊春日ノ作。坐像一尺五六寸アリ。今此所ノ東中
嶋村ノ中常念寺ノ本尊是ナリ。件義ヲ以テ。此山常念
寺ノ有ナリ。○秋山 詠和歌

詠和歌
人といつてつゝ後らん秋の心松のあつゝよるるの月 修取
高野寺合
名多

○秋山里 詠和歌 里ハ即チ今ノ小枝ノ宿ナル歟

●鳥羽殿 殿舎在南北一ノ所 称北殿南殿

此所人皇七十二代 白川院御宇應徳三年ニ立
白川院 鳥羽院ノ離宮ナリ。其地ヲ按ズ。件ノ秋山
ヨリ南北六町許東ハ今ノ竹田安樂壽院ノ邊ニ至ス。

其境内ナリ今鳥羽ノ往還道ヨリ東南北ニ街道アリ。其
所ニ南北ニ向ツテ門アリト見ヘ多。其跡記次下ニ
御所内 今字ニ云フ也。此所秋山ヨリ二町餘南南北ニ
町許ノ地ヲ云フ。是則件ノ殿舎ノ地ナリ。是南殿ナル歟
此地今中嶋村ノ領ナリ

○院馬場 右同村内爲田字

△菊水 傳云ラ古假山泉水ノ所稱菊水名水アリト
其所今ノ秋山ノ北東半町許ニアリ今無水

●南殿

山丸集 名所の南殿乃東西の呼ぶ所なり。此はよき菊水に
流るりて名を南殿とす。今も此の地に菊水の跡あり。

くつゝあへんといふまじき

鳥羽殿門在南北 出盛衰記 高倉新院殿鳥羽御

幸ノ時鳥羽殿ニ 後白川上皇マシマス故ニ御立寄ア

ツテ御出ノ時此南門ヨリ出テ御舟ニ乗王ヲト云 卷十

四丁 按スニ舟ハ即チ西方桂川ニアルナリ古鳥羽往還

道ハ今ノ道ヨリ東今田島ノ所ヲ南ハ今ノ横大路ノ東

一町許東ヲ通ツテ淀ニ至リシ也其道條今田地ノ下ニ

在テ石橋ノ石等土中ニアリ其條地中土尚堅ク道ノ

姿アリト云ラ 此邊土ノ人所北ハ意ニ朱雀通九條ニ至リ

シ也今ノ躰上鳥羽ヨリ横大路富森地名納所 淀領在

ニ至リテ皆秀吉公ノ時民家ヲ西ノ方堤ノ上ニ引移セリ

件ノ民村古ハ東ニアリ又同條東伏見ヨリ淀ニ至ル堤

モ同時ニ出來ス尚末卷ニ載タリ○或問云此南北門鳥

羽殿ノ門ト人會得シガタシカハ何ソ往還ノ貴賤トス

ベケニヤ南北ニトヲリタル躰諸書ニアリ如何ト答云此

門鳥羽殿ノ外封ノ門ニテ彼御所ハ西面ニアレバ此門

其前往還道ノ中南北ニアリトシルベシ此門則彼御所

ノ方境ナリ例共ハ今西本願寺門前ノ大路ノ中南北ニ

門アツテ往返スルガゴトシ

城南神社 在小枝東平林内 鳥居 東向 社 南向

拜殿 南向 所祭 社家説曰二十二社内上七社也

鳥居 木柱

社 南向

拜殿 南向

所祭 社家説曰二十二社内上七社也

七社 伊勢 石清水 賀茂上下 松尾 平野

稻荷 春日上巳 号城南神 王城南地故跡

八幡宮 在右東方南向 已上例祭 九月九日

有神興二基 竹田 上鳥羽 塔森 小枝土人

為産沙神

月清集

此も亦よく祈る乃法々々 社頭祝題

此の戸も祚の恵にうまじ勢の南を居せしり 後遷

北殿 田中殿モ 按ズニ此ヲ舊地今城南社亥子ノ間ヨリ

艮ニ至ツテ三町許リノ所ナリ假山泉石ノ跡地中ニアリ

是ヨリ今竹田安樂壽院ニ至ツテ昔ハ下境ノ所ニテ皆ナ

北殿ノ地ナリ竹田ハ自是北東二町許也北殿ハ白河

上皇移樓玉ヒレ所ナリ

手載集 名羽名よかうく内一まり比常身自院之ノ

心を流しうまりまうはあそく後世をまうらう

言ハり若事をて見れ本院外に自院のあり自院

目録 口を流しうまりまうはあそく後世をまうらう

字を流しうまりまうはあそく後世をまうらう

考ハり若事をて見れ本院外に自院のあり自院

池 古在同所 聖ニ雖為田形存

千載集 建永元年八月十二日 亦名羽名ノ所 昔々ノ池舟

より流せたとありまり月乃也和寺行のたたて

とも流せれらるとうまりまうはあそく後世をまうらう

つゝふへんふふふふふのつをるふむのつ

● 車殿 右在同所 古今著聞集云云久事元年二月

十有日 法皇御門院法皇同車にさく多相の車をさる

光明院へ沙幸ささくをの採を以て後世にささくを

後嵯峨院に此所

住玉にレナリ。王代一覽曰。此比ハ 後嵯峨山皇ハ鳥

羽ノ離宮ニオハレテス云云 卷五三十二紙

● 田中御所 右云同御所 此所ニ古院ノ御墓在

由載保元物語第三

● 平門字 今城南宮ノ東北竹田不動院ノ西ニ當所

田地ノ字ナリ。古同御所ノ門アノ所歟

● 泉水田字 ○高畠字 ○御池同 ○龍口同

已上同所ニ續イテ。今城南神社ノ北東ニ至ッテ田地ノ

字ナリ。高畠トハ其地高干故ニ云々。古ハ假山ノ跡ナリ。泉水

田ハ池ノ所。龍口ハ遣水ノ通路歟。是即云上池ノアト。

鳥羽殿ノ境内ナリ

● 上菩提院 字右東方竹田不動院ノ西一町許其舊跡

也 今主人称上品大主誤ナリ 保元元年六月十

三日美福門院此所ニテ飾ヲオロレ玉ヘリ。其故ハ

近衛院早世レ玉ヒ。法皇又々御惱重キニ依テ入菩提ヲ

也 出保元物語 ○山槐記云安元元年九月朔日

院御幸鳥羽自明日依可被始行成菩提院念佛也

●白川院陵 古記曰成菩提院 白川院陵 按今
件所竹田村二町許西田間廣サ一間半。一圃高四
尺ノ塚アリ。是其陵歟。彼帝ハ奉火葬由見記然レ此
陵ハ納御骨所ナル歟。○或書云ク 白川院御骨納於鳥
羽塔中矣

●勝光明院 在鳥羽舊地不詳 元亨釋書云保延

二年三月二十三日慶鳥羽勝光明院導師忠尋兜
願覺獻帝及上皇六宮百司皆預會卷十六

●洲濱殿 在鳥羽舊地不詳 此所新大納言成親ノ
別業ノ由載平家物語卷一

所載次下小枝東自竹田至芹河 秋山南名

所載芹河末

竹田 在城南宮森良且卯辰一町許 此所洛陽東

洞院通南順路也 竹田今八所ノ名上如舊記竹田

庄号ニシテ竹田在上云。或云真竹庄 分村云東竹

田西竹田中間一町餘○竹田 詠和哥

竹田の里小のさぬと牙密水鏡のけ衣 後紀

○安樂壽院 在竹田 境地東面 宗旨 真言宗派

古義新義隨意修學 門在東北 當院初 鳥羽上皇

ノ離宮ノ地ナルヲ。保安四年ニ改メテ爲寺。五層寶塔ヲ
造リテ爲地鎮時 上皇御年二十一歳經門ニ入ツテ密

乘之尊信之玉へり。○釋書卷十六曰。久安二年六月
法皇幸齊山。秋八月慶彌陀像于鳥羽宮。又同三
年六月十七日。天仁天治二上皇幸天台山。召座主
行玄修七佛藥師法。八月十一日營佛宇于鳥羽宮
安彌陀九像慶之。同上

○堂東向。始五重塔也。今猶号本御塔。

本尊阿彌陀佛。坐像二尺四五寸。請安厨子。神明化現ノ

造り玉へり。悉有傳記。胸ニ正字アリ。号正字阿彌陀。

堂下ニ石櫃有リ。鳥羽院ノ宸書ノ法華經并二顯密ノ

衆僧二五部ノ大乘經ヲ一字一石ニ書シテ納メ玉へリ。又

法皇御遺詔ノ故ニ崩御ノ後御遺骸ヲ此塔下ニ奉納

也。○帝王系圖曰。保元元年七月二日崩。年五十四。
即夜葬鳥羽安樂壽院。本御塔云云。○百練抄曰。御
塔擬山陵也矣。

○新御塔。右卯辰間西向。此堂古五重塔也。後

世堂ニ改ルト云ヘトモ用舊号ナリ。傳曰。此所始々塔九所ニ

在リ。舊地不詳。本尊。十一面觀音立像。三尺四五寸許。

安厨子。作弘法大師。○脇壇。右鳥羽院宸影。

左美福門院。八條女院。裝束五重。共畫圖。筆者不詳。

同御自筆ノ影兩幅アリ。納藏。此所美福門院ノ御建

立准。本御塔新御塔号レ玉へリ。

○美福門院。鳥羽院女御參議藤長實卿女近衛

院母公

○八條女院 美福門院御子号暁子内親王無立

后称女院 後白川院東宮御時為養母

○塔二重 在新御塔西 本尊 阿弥陀佛 坐像二

尺四五寸 作 春日

○新堂 在本御塔乾南向 本尊 藥師佛 坐像

二尺五寸許安厨子 作 行基

○無銘五輪塔 在同堂前 由縁不詳 立無銘

塔當國有四所

○御愛梅 在塔北傍及本御塔北傍三所 並日許

鳥羽院所愛也 日許云云字子尺二日版字五十四

○冠石 在本御塔東塚下。上在松谷云龜石非云云

○荒神社 在塔西東向

右兩御塔三古供僧十二房舍アリ。就中本御塔ノ

六房ハ 鳥羽上皇脱履ノ日同剃髮シテ隨從シ奉ル

近臣六人ノ裔ナリ

新御塔六房 美福門院 八條女院准上所定也

○國分寺 在安樂壽院長三町許 地ヲ云田中

額 國分寺 横額 筆者不詳 本尊 阿弥陀佛

立像二尺許 作春日 按ニ 聖武天皇六十餘州

每國ニ一寺ヲ建テ号國分寺至テ載テ舊記ニ詳也。一

說ニ山州ノ國分寺ハ。即チ此所ナリト。此說非ナリ。當國ノ

國分寺ハ舊跡在相樂郡明白ナリ。載卷十三今此ノ所ハ
國分尼寺ノ舊跡ナル歟。天皇ノ后光明皇后又六十
餘州ニ國分尼寺ヲ建テ。尼ヲ栖シム。予當國ヲ經歷スルニ
未國分尼寺ノ舊跡ヲ聞ズ。是故ニ述之。後人可有考

○九品寺 在里中南面 傳未考

○山王大宮 在東竹田竹林中 鳥居南向 官南向

○十禪師官 在大宮東三十間許 例祭 四月初申

○御幸社 在大宮西田間 右山王宮古ハ魏大ニシテ

神領アリ。例祭美々々々走馬遷者アリ。此所神輿ノ旅所
ニシテ西方ニ到ル其地今尚老杉アリ。自社ニ町許

○猿塚 在里良方田間 傳云。往昔白猿此所ニ來リ

遊ブ。皆云。是即山王権現膚嶽ノ麓ヨリ此地ニ駈
向ノ瑞ナリト。因テ當所ニ山王神ヲ勧請シテ産沙ノ
神ト爲ト

△東陵 △西陵 安樂壽院ノ東西人家ノ地ノ字也。号

陵町。是東陵ナリ。西陵ハ土人号塔壇堆壇ノ地アリ。此
所ヨリ近年石鎖管ヲ掘出ス。陵不詳

○西行寺 在西陵町西竹林中南向 傳云。此所ニ

西行法師幽棲スト。庭ニ池アリ。称西行月見池。可有後勘

○北向不動院 在同里西 宗旨 真言 門 西向

佛殿 北向 本尊 不動明王 坐像六尺許 作 興教
大師 御本願 鳥羽法皇 ○傳 鳥羽法皇兼テ

師ヲ信_レ至_レヘリ。是故ニ當院ヲ建立_シテ師ヲ住_シ近隣ノ離宮ニ召_テ法要ヲ聽聞_シ至_レヘリ。或時師ニ勅_シ至_ル爲鎮護國家不動ノ巨像ヲ刻彫_シテ此地ニ安スヘシト。師勅_答シテ開所ニ籠_ツテ芥_ヲ下_ス幾許_ヲス_レテ像現ス。乃一宇ヲ立_テ安置_ス。又像軀ニ師所持ノ佛舍利七粒。手書ノ經咒ヲ納_ム。今現ニアリ。此尊毎月ノ朔十六二十八日ニ開帳ス。傳云朔日ハ上皇御即位日。十六日御誕生辰。尤八日御脱躰日也。上皇ヨリ代々聖主天下安全。寶祚榮久ノ勅願所ト成ス。但中絶年アツテ近世後水尾院ノ御時ヨリ當今ニ至_ツテ御祈ノ詔アルナリ。

○美福門院陵 不動院門前西塚是也 土人説

○近衛院陵 編年集曰久壽二年七月九三日崩于近衛皇居年十七。八月朔日葬船岡山野御骨安置

知足院○百練抄云長寛元年十一月廿八日奉渡近衛院御骨於鳥羽東殿美福門院御塔矣

井河地名在城南宮南五町許

古此所ニ清流アツテ三尺ノ根井ヲ生ス。因テ爲名ト云。其水源鴨川ノ下流ニシテ東ノ方竹田ヨリ入_レト。今絶ス。民居凡_ソ方一町爲村名○井河 詠和歌

後人
詠和歌
史本集
身とほろも社とらゆる井河の根あつたもろもろのるれ

上皇嚴嶋御幸ノ日鳥羽殿ニ立寄玉ヒヨシヒ法皇ニ御對面アツテ御立ノ時此所ヨリ御船ニ乘玉ヒヨシヒ由ヨシヒアリ古桂川ハ下鳥羽ノ南ヨリ巽ニ流レ伏見川ノ末淀川ニ合ス中間ニ赤井川原アリ赤井今為田地故無其名鳥羽ノ南門ヨリ近レト見エタリ法然上人左遷ノ時南門ヨリ艸津ノ舟ニムカヘル躰彼傳記ニ載タリ又々新拾遺集出詞書

新拾遺集

鳥羽門院ハノミヨクシテ其ノ所葺キタルハ供

々々津ノミヨクシテ其ノ所葺キタルハ供

々々津ノミヨクシテ其ノ所葺キタルハ供

々々津ノミヨクシテ其ノ所葺キタルハ供

壇上所名

在小枝南六七町

其所人家往還道ノ

左右ニアツテ南北ニ二三町ヲ云フ是則土人ノ野号也謂コト只初ノ土地ノ低キヲ土石ヲツンテ道路ヲナス以低為高故ニ稱之也此邊至ツテ低今尚堤ノ東沼池ナリ一説曰鳥羽院此邊ニ住玉ヘルトキ御祈念ノ僧常ニ壇上ニ居テ護摩ヲ修シ密呪ヲ誦スル其寺地ノ上ニ云壇上下何ゾ天子ノ護持僧道場往還ノ巷ニ可在乎可笑

戀塚寺

在同所人家中東方

寺南面浄土宗僧

守之此所ニ有小塚是即チ盛遠ガ所築也其由縁戀慕ノ故ニ世人云戀塚也遠藤盛遠渡ガ妻ヲ戀テ

言ヲ寄ル。彼貞女ニ喋ラレテ。渡ヲ殺ストレテ。女ヲ斬ル事
所知世也。女ハ盛遠ガ從兄弟ニシテ。姨ノ女也。姨ヲ号テ
衣川ト云フ。奥州衣川ニ住シ故ナリ。其後歸上ツテ。都ニ
在トイヘ。一家ノ輩尚衣川殿ト呼レ也。渡ガ妻ハ名ヲ
吾妻トイヘトモ。衣川ノ子ナレバトテ。他異名ヲテシテ。袈
裟ト号ス。容色艶ナリ。盛遠十七歳ニ及ニテ。渡邊ノ橋
造管世養ノ日。是ヲ見初ム。是レ戀慕ノ始ナリ。女書殘
哥。露ノカキ。淺茅ガ原ニ迷フ身ノイト。闇路ニ入ルソ
悲シキ。母是ヲ見テ。闇路ニモトモニ迷ヒテ。蓬生ニ獨
露ケキ身ヲイカニセン。母翌年四十五歳ニシテ死ス。
渡發心シテ。剃髮シ。渡阿弥陀佛ト号ス。盛遠剃髮ノ

盛阿弥陀佛ト号ス。即チ女ノ遺骸ヲ以テ。家ノ後苑ニ
収メ。三年ニ至テ。二人不退ニ念佛シテ弔フ。或夜二人
ノ僧夢ニ彼塚ノ上ニ蓮華開ケ。女其上ニ坐シテ成佛
ノ相ヲ示ス。二人歡喜シテ。マスキ追福ヲ修ス。已上盛衰記
意卷十九。此所爲寺開基未詳。按ニ右ノ塚今尤
近ニシテ。往還道ヨリ。十五六間ニアリ。右如盛衰記。此塚
盛遠ガ家ノ後ニ築ト。然ラバ今上鳥羽ノ南ノ端ヨリ
此所及ヒ南淀ニ至テ。面トナス方古ノ後ナル事ヲ可知
下鳥羽 云壇上南
○法傳寺 在同所里南東方 寺門西面 宗旨 淨土
本尊 阿弥陀佛 坐像三尺餘 作 惠心

○藥師堂 在佛殿南 本尊 藥師佛坐像二尺餘

作 行基○十二神 四天主 作 弘法大師

當寺開基 行基菩薩 中興 圓知上人是則東

山知息院ノ一代ノ住守也。辭職ノ後、閑居ノ地ヲ選ム。

或時洛北岩屋山ニ詣スルニ彼山ノ不動尊ノ示驗ニ

由テ此地ヲ感得ス。改テ爲專念道場。

○方便水 同所北ノ門前ノ井水也 此水爲名事

圓知上人此所ニ來ルニ水乏シ。因テ水源ヲ尋テ井ヲ

穿ツ時、村民ヲ招テ云々。汝等佛号ヲ唱ヘテ井ヲ掘バ

錢ヲ與ヘント。男女錢ヲエン事ヲ欲シテ、聲ニ唱ヘテ

所掘也。是則上人善巧ノ方便ナル故ニ爲名也。

○一念寺 法傳寺南路傍西向ノ小堂。是ナリ

本尊 阿彌陀佛坐像八尺。作春日 開基 真阿彌

陀佛 此僧 後村上院ノ御子也ト云フ。晚年此地ニ

閑居シ終レリ。西面ノ川ニ水葬ス。其所ヲ号テ真阿彌淵

ト云フ。此所ノ北在半町許

○田中天主社 在法傳寺巽三町許森内 拜殿東向

社同 所祭 牛頭天王 社記未考 例祭 九月

十日 下鳥羽及横大路土人爲産沙神 有神輿一基

上稱所名 在法傳寺東北

○三昧無常所 在同所 此所近邊ノ葬所ナリ

此所行基菩薩開闢ノ所也 有小堂 本尊 地藏菩薩

薩立像六尺許 作行基

○經塚 在同所 行基菩薩所設也

横大路所名 在下鳥羽南 人家大路ノ東西ニアリ

此所無古秀吉公代此堤ヲ築テ北鳥羽南ハ淀ニ至ル
其ヨリ皆人家ヲ堤ノ上左右ニ移スナリ古ハ東方今田
島ノ地ニシテ中ニ往還道アリ。号横大路伏見ノ城ヨリ當
西此路攝津國河内等ヨリ到都街道ナル謂ナリ

富森所名 在横大路南三町許 此所同上所引移也

元ノ地ハ東方在二町許此所古森アリ。号富森今亡
此元ノ地ヲ名古渡謂コ只古此邊川原ニシテ東ハ宇
治川伏見川ノ流ニツキ多。往來ハ即チ是ヨリ舟渡

ニテ。下口エワタリ也。今其渡口富森ヨリ巽ニアタル淀
堤ノ上ニ。今民家三軒アリ。此所古ノ渡口ナリ。今尚渡
場ト云ラ也

納所所名 在富森南 自是淀領也

○赤井別名赤江 此所滅ス。今云ラ赤井ハ横大路ノ西ノ渡
場ヨリ未申ニ有。一村人家二十軒許アリ。是近世ニ所
講ニテ。穢多居住ス

赤井 赤井川原同橋等舊傳并ニ平家物語盛衰記。太
平記ニ載セタリ。此所元ノ地ハ今ノ横大路ノ東ヨリ。南ニ
ツキテ田畠トナス所ナリ。此所古ハ東ニ淀堤無シテ。一
備ノ川原ニシテ中ニ川アツテ。其流東ハ宇治川伏見川

流シテ西ノ方桂川ニ入ツテ。淀ノ水垂ニ入ル也。
 此川原ヲ云赤井川原。有橋南北ニ渡ル。是ヲ赤井橋。
 此道南ハ淀ニ至リ。北ハ古ノ鳥羽街道ニシテ。九條朱雀
 通ニ通ズ。橋南北ニ渡ル。躰載太平記。文ニ大渡ノ橋ヲ打
 渡リテ。赤井川原ニヒカヘラル。ト云。大渡ノ橋ハ古淀ニアリ。
 載淀條下。又曰。八幡ハ究竟ノ要害ナルニ。赤井ノ橋ヲ
 引テ。畿内ノ官軍。七千餘騎ニテ楯籠ル云。盛衰記
 曰。池大納言賴盛郷モ。池殿ノ亭ニ火ヲカケテ。鳥羽ノ
 南。赤江川原マテ落玉ヒケル。卷三十一出。二十紙

○赤江崎 云右同所。出三代實錄

三代實錄曰。貞觀七年二月廿一日戊午。是日割山

城國自故治部卿賀陽親王石原家至赤江崎。承和
 元年以降。百姓不能漁獵。重加禁。卷四十三出。六上
 ●赤江淵 今不詳。源爲義生害ノ後。其室此所ニ投
 身由載保元記

已上自是南至淀。紀伊郡

所載。次下。自小枝橋。西川西至南

塔森 所名 在小枝。乾三町許。有民居各村

古。此所ニ森アリ。其塔森。傳云。秀吉公朝鮮國發向
 時。伏見ヨリ此道ヲ過リ玉フ。其森ニダクノ名アルヲ聞
 召テ。即チ火ヲ放ツ。燒亡シ。大ニ笑ヲ含テ。是即チ唐ヲ
 亡スベキ前表ナリト。祝シ玉ヒレトナリ。此所紀伊郡

桂川 在塔森西 是阿久世之東之經テ此所ニ流ル桂
下流ナリ

○乙訓郡 右鳥羽西當郡也 次下ノ名所前卷

乙訓郡ノ部ニ不記此所ニ記ス事ハ尋ル人京師ヨリ
至ルニ上鳥羽ヨリ至ル是順路ナラ分故ニ爲易得意也

知我所名 或作興我 在上上下下此所上久我ナリ

有民居名社 在塔森西南川西ニ町許

○久我噺 此道上鳥羽ノ南ノ端ヨリ西南ニ至ル道ナリ

此卷ヨリ至久我八九町許此道久我ヲ通リテ南西山
背ノ北ノ卷ニ至ル此中間眺ルタル野徑ノ中ヲ通ルヲ以テ
云噺也是則チ上古大内ノ御時西國ヨリ王城ニ到ル者

此路ヲ經ル仍テ其名高キ也大平記云久我噺合戰ノ
地是ナリ其戰場ハ下久我ノ南ナリ

○久我神社 在上久我民居乾ニ町許 鳥居 南向
木柱

拜殿同 社同 神号 菱妻明神 社記未考

三代實錄曰貞觀八年八月十四日丙戌授山城國

正六位上興我万代繼神從五位下卷十三出十二

主人爲産沙神 例祭 四月己日 已有兩日用初
有三月用中

○久我森 云同社社 詠和哥

六條
ありふりし著お祭り久我の森にありや何なるは後
日いふ事もあはれし居る久我の社をいふ事もあはれし
大伴
即女

○八幡宮 在右社東 鳥居 南向
木柱 宮同 官記不詳

